



カルテ記載やメモと並行して医療データを構造化する医療データプラットフォーム

## NEXT Stage ER シリーズ

国内の救急搬送者数は年間約 600 万人。搬送先である病院の救急外来は 24 時間全診療科に対応し、入院患者の約 1/3 が通過する重要な場所ですが、紙中心の情報記録・伝達が主流となっておりデジタル化の余地が大きい場所です。本シリーズは構造化入力インターフェース、テキスト / 画像 / 音声解析などの技術を使い、医療従事者や救急隊の情報記録をデジタル化・構造化データ化し、業務効率と医療の質の向上に貢献しています。

### サービスのベネフィット

救急医療において、これまでは紙でしか残っていなかった情報、電子化されてはいたが文章であったため活用できなかった情報を構造化データ化し、業務に役立てている点が大きな価値。加えて、医学研究を積極的に行う医療機関に対してはこれらの構造化データや他の患者データ（電子カルテデータ等）の統合分析環境も提供。現在、この環境を活用した臨床研究支援サービスを製薬業界向けに開始し、価値提供の幅を広げている。

### サービスのターゲットと効果

#### 【救急隊】

現場での活動、病院への受入要請・情報共有が、アプリへの音声入力、OCR、メッセージングアプリを介した情報一斉送信などにより効率化。搬送時間の短縮や情報可視化によるミスコミュニケーションのリスクを低減可能となる。また、予後情報、事後検証情報の随時入手等をはじめとするレポート機能により、救急隊員の書類作業を削減。

#### 【救急病院】

救急隊とのデジタルでの連携、カルテへの患者データ自動構造化・標準化、院内の情報共有など救急部門の業務を効率化しながら、研究用データ収集も同時に実現。臨床研究、病院経営の意思決定のもとになるデータの収集と蓄積を通常業務と並行して行うことができる。

#### 【製薬企業】

これまでカルテのテキストの中に埋もれていた重要な情報を構造化し、多種の検査値データや診療明細データ等と連携させたリアルワールドデータの分析が可能となる。これまで把握が困難であったある疾患の治療実態把握や治療効果の見積り等が、低コストで素早くできるようになり、製薬企業における臨床研究や各種調査を加速させる。

- 救急隊の平均通話時間は、3分30秒から2分44秒へ大幅短縮。（鎌倉市）
- 病院の救急部門で、通常の打ち込みより早くカルテが作れると答えた医師が全体の50%。患者情報検索に役立つと答えた医師は42%。（日立総合病院 ER/ICU）
- カルテ記載支援・紙運用の切替などによる業務効率化により、30～60分/人/週程度の業務時間短縮（日立総合病院 ER/ICU）

### サービスの利用事例

<https://txpmedical.jp/case-study/makita-general-hospital>



<https://txpmedical.jp/case-study/tsuchiura-kyodo-general-hospital>



<https://line.worksmobile.com/jp/cases/tmh/>



### AWS 選定のポイント

- インフラ面の整備にかけられるリソースに限りがある中で、スケーラビリティの高いアーキテクチャを手軽に構築・管理できる点
- 3省2ガイドラインに準拠している点
- ドメインの特性上、可用性の高い点